



藤田大介：富山湾

富山湾は海岸線 (=富山県沿岸) 約100kmの小さな湾である。我が国の日本海側に面する湾としては最も深く、最深部は水深1,000 mを超える。表層は対馬暖流系水、水深300 m以深は日本海固有水(深層水と呼んでいる)で占められ、沿岸域(特に湾奥部)の表層は河川水の影響を強く受ける。富山湾はよく不思議の海と言われる。アイガメ(壺状の深い海谷), シラエビ, ホタルイカ, 埋没林, 蟹気楼, 寄り回り波および鯨起こし(冬の雷)を「富山湾の七不思議」ということがあるが、いずれも地形や海況と密接な関係がある。地図で見ると、富山湾の海岸線は単調な弧を描いており、海藻相にはあまり期待を持たれないかもしれない。しかし、実際には、岩礁あり、転石あり、急傾斜の地形あり、低塩分水が卓越する区域あり、意外に海

藻の種類は豊富である。富山湾の海藻については「富山湾海藻誌」(大島 1952)が詳しい。また、それ以降1988年以前に報告された海藻の種類については藤田・泉(1989)が目録としてまとめているが、近年、新たに約20種が見つかっており、合計300種ほどの海藻が知られている。著者は、調査例の少ない県東部を中心に海藻の植生を調べており、朝日町と黒部市については既に概略を報告している(藤田・湯口 1995, 藤田 1996)。湾内の海藻の採集地は、藤田(1994)が簡単に紹介しているが、ここでは、現地の様子や交通の便も含め、改めて紹介したい。

沿岸の状況

図1に示したように、富山県では9市町が富山湾に面しているが、日本有数の浸食海岸で、護岸や離岸堤が発達しており、自然の状態が保たれていないところ、あるいは海岸まで降りて行けない場所も多い。天然の藻場は湾奥部の新湊市と富山市を除く7市町の沿岸に、つまり、東西に分かれた形で分布している。このうち、岩盤が発達しているのは県西部の氷見市と高岡市、県東部の朝日町の3市町の沿岸で、あまり知られていないが、上記3市町沿岸の岩盤地帯には、暗礁、島、離れ岩もある(藤田 1993)。これ以外の4市町(滑川市~入善町)の沿岸には転石地帯が点在する。転石地帯はいずれも神通川や黒部川などの大河川の影響下にあり、海域が静穏な時には海岸線付近の塩分が著しく低下し、躍層が生じる。また、降雨の後は濁りが著しくなる。沿岸の水温は冬に10℃、夏に30℃前後となる。春先は雪解け水が流れ込むために最も水温が低く、河川水の影響が強いところでは7℃前後まで下がる。干満の差は小さく、40cm以下である。採集の注意としては、冬の寄り回り波を挙げることができる。これは日本海北部に低気圧が位置する時、富山湾に到達した波が岸の近くで突如として高波となり、沿岸(特に県東部)を襲うもので、防波堤や離岸堤の釣り人な

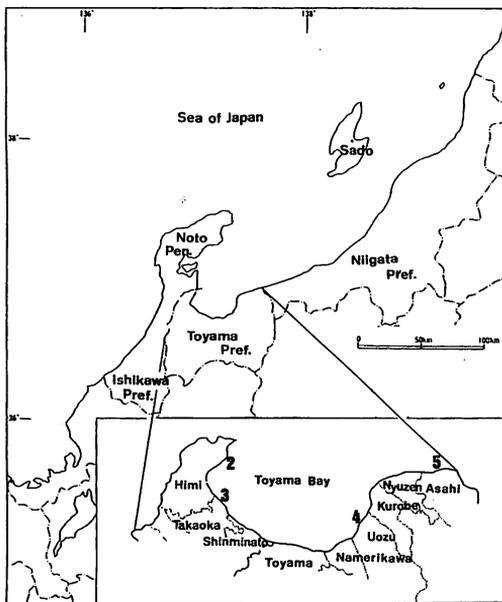


図1 富山湾の位置と市町村区分。2~5は図2~5の位置を示す。



図2 氷見市灘浦海岸(左側が北)

どがよく犠牲になる。この記事を書いている期間にも、離岸堤で釣り人が亡くなった。

藻場の分布

湾の東西にある岩盤地帯はいずれも海中林(ガラモ場)となっており、ホンダワラ類とカジメ属2種(クロメ・ツルアラメ)の海藻で構成される。海中林を構成するホンダワラ類をはじめ、海藻の種類数は圧倒的に西部(特に氷見市沿岸)の方が多く、大島(1952)、本田(1969)、Honda and Noda(1970)など、富山湾における先駆的な海藻の研究では殆どこの海域で採集が行われている。特に、氷見市姿沖約1kmに浮かぶ蛇が島の周辺は最も種類数が豊富で、主にこの海域で採集が行われたHonda and Noda(1970)の海藻目録には186種が含まれている。アマモ属の海草が繁茂するアマモ場は氷見市沿岸に限られる。海中林もアマモ場も概ね水深15m以浅に分布限界がある。これに対して、湾東部の朝日町沿岸の岩礁地帯では、種類数は100余種と少ないが、点在する離れ岩を中心に、水深25m付近までクロメなどの生育が確認されている(藤田・湯口1995)。

湾東部(滑川市～入善町)の転石地帯ではテングサなどで構成される小型海藻群落為主である。小型海藻群落は、滑川市や魚津市の沿岸では水深10m(距岸100～300m)、入善町沿岸では水深20m(距岸700m)付近まで分布する。小型海藻群落の沖側にも転石が続いていることが多いが、無節サンゴモ以外の海藻は極端に少ないことが多い。

磯採集が可能な場所

磯採集が可能な自然海岸は、湾西部では氷見市の灘浦海岸、高岡市の雨晴海岸、湾東部では魚津市の青島海岸、朝日町の宮崎海岸などである。

灘浦海岸は高岡駅(JR北陸本線)または氷見駅(J



図3 高岡市雨晴海岸(左側が北)ドーナツ状に見えるのは鎌岩という暗礁。

R氷見線)から加越能バス(灘浦海岸行き)が出ている。海岸線を眺めながら、阿尾、藪田など、気に入ったところで降りるのもよい。特に気兼ねなく採集できるとすれば、図2に示した小境のCCZ(写真中央の石積み護岸で囲まれた海水浴場)や大境漁港(写真左側)で、付近には魚介料理のおいしい民宿が立ち並んでおり、公衆便所や水道もある。大境漁港では、アオノリ類、アナアオサ、フサイワズタ、ミル、カヤモノリ、フクロノリ、セイヨウハバノリ、クロメ、アミジグサ、シワヤハズ、ホンダワラ類、アマノリ類、マクサ、フダラク、シラモ、ホソユカリ、イバラノリ、トゲイギス、クロソソなどで、50余種が採集できる(Fujita et al. 1990)。珍しいものとしては紅藻ヨレミグサ属の種類が採れたことがある。この漁港は港内にアマモ、防波堤にクロメ、ホンダワラ類、あるいはテングサ類が生育しており、船揚げ用の斜路では、アオノリ、フダラクなどの帯状分布が認められ、海が多少荒れても種々の海藻を採集することができるので、教育実習にも適している。

雨晴海岸(図3)は、写真左端に写っている雨晴駅



図4 魚津市青島海岸(左斜め上が北)



図5 朝日町宮崎漁港周辺(上側が北)

(JR氷見線)で下車するとすぐ目の前である。駅から南側に歩き、義経岩(写真中央よりやや右側の線路沿いの岩)や女岩(写真右端)の周辺に広がる岩盤で採集できるが、この海域は近年砂が堆積する傾向にあり、種類数はあまり期待できない。

魚津市沿岸(図4)では写真中央に写っている魚津駅(JR北陸本線)から徒歩約15分で海岸に出る。採集は適当な場所で階段護岸を降りて行かうか、もう少し東側に歩いて船揚げ用の斜路(写真右端)や離岸堤の切れ目などで海に入ることも可能である。長靴や胴長で入れる水深帯は河川水の影響で塩分が著しく低く、アナアオサ、タマジユズモ、キョウノヒモ、ムカデノリ、カタノリ、ベニスナゴ、ツノマタなど、低塩分に強い海藻を採集することができる。

朝日町の宮崎海岸(図5)は、越中宮崎駅(JR北陸本線)から徒歩15分で行ける。宮崎漁港とその西側の転石地帯では、これまでに掲げてきた種類のほかに、ツヤナシシオグサやクボミイシゴロモなどを含め、60余種が採集できる(藤田・湯口 1995)。

このほか、自然海岸ではないが、交通の便が良い採集地としては、新湊漁港(新湊市)や岩瀬漁港(富山市)の斜路、生地海岸の護岸(黒部市)などが挙げられる。それぞれ、新湊市役所前駅(加越能鉄道)、岩瀬浜駅(JR富山港線)、生地駅(JR北陸本線)から徒歩10分以内で行ける。

興味深い海藻

北陸ならではの海藻と言えば、ホソエガサ(能登半島内浦が主産地)、ツルアラメ(基準産地:石川県輪島市)、ホソナガベニハノリ(基準産地:石川県羽咋市)などであろう。ホソエガサは氷見市の水深4~12mの砂岩質岩盤または砂泥域に生育している。ツルアラメは、入善町、氷見市などで局所的に大群落を形成して

いるほか、魚津市~入善町のジャングルジム魚礁でも頂面を覆う。ホソナガベニハノリは入善町沖(水深約10m)に多く、アヤニシキやコザネモとともに大群落を成している。

このほか、比較的珍しいものとしては、カシラザキ、ケヤリ、フタエオオギ、ウスイロモクなどが多産するところもあり、近年は、オトヒメモズク、ヒメヒシブクロ、スジコノリ、ハリプチロン属(有節サンゴモ)、コブエンジイシモなども見ついている。このように、興味深い海藻は漸深帯の方が圧倒的に多いが、富山県沿岸は全面的に潜水禁止となっているので、県の特別採捕許可または地元漁協の了解がないと潜水採集はできない。富山県には大学の臨海実験所がなく、漸深帯の採集については、当面は富山県水産試験場(所在地:滑川市高塚364,連絡先:TEL:0764-75-0036,FAX:0764-75-8116)に問い合わせただければ良いと思う。採集者の希望通りには添えないが、関連調査の予定があれば同行していただくことが可能な場合もある。但し、特殊成分の分析などを目的とした海藻の大量採取の依頼に対しては基本にお断りしている。

引用文献

- 藤田大介 1993. 富山湾の名前のついた暗礁・島・離れ岩. 富水試だより, 58: 11-14.
- 藤田大介 1994. 富山の海藻. p.1-30. 藤田大介・濱田仁・渡辺信(編). 富山の藻類, 富山県水産試験場, 富山.
- 藤田大介 1996. 黒部市生地沿岸の海藻, サザエ及びキタムラサキウニ. 富山水試研報, 8, 11-19.
- 藤田大介・泉治夫 1989. 富山県沿岸産海藻目録. 富山水試研報, 1:33-49.
- 藤田大介・湯口能生夫 1995. 富山県朝日町宮崎沿岸の海藻. 富山水試研報, 6, 1-15.
- Fujita, D., Okada, H. and Sakata, K. 1990. The importance of some marine red algae inhabiting fishing-port waterbreak vertical surface as natural food for juvenile horned turban *Turbo (Batillus) cornutus*. Bull. Toyama Pre. Fish. Exp. Stn. 2:41-51.
- 本田幸子 1969. 富山湾の海藻について. 藻類 17: 104-108.
- Honda, S. and Noda, M. 1992. On the marine algae of Toyama Bay in the Japan Sea. Sci. Rep. Niigata Univ. ser. D (Biol.) 7: 1-25.
- 大島勝太郎 1952. 富山湾海藻誌. 大東出版文化協会, 東京. 196pp.

